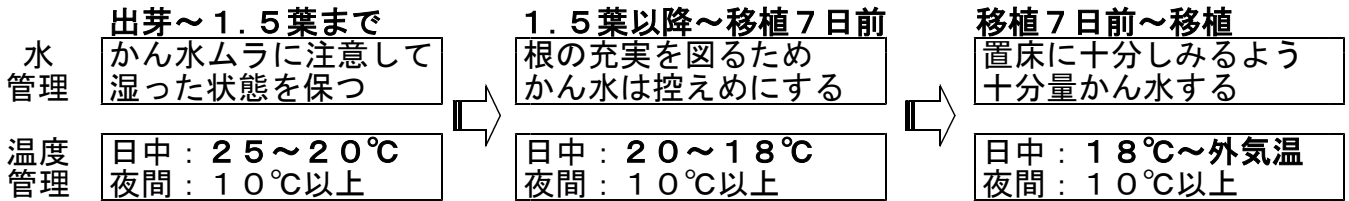


農時電送

水稲 No.②

1. 健苗育成のポイント

日中十分に換気してもハウス気温が25℃以上になる場合は、閉める時間を遅くするなど、徒長防止のため夜間に熱がこもらないように温度管理をしましょう（霜が予想される場合を除く）。また、曇天であってもハウス内温度が急に上がる場合があるため、ハウスから離れる場合は、温度管理には十分注意しましょう。



〈温度計の位置〉

出芽前：種籾の位置（土壌内） 出芽後：葉上（生長に合わせる）

2. 苗箱追肥

育苗形式	箱マット	成苗ポット・型枠
銘柄	育苗液肥	100倍液・500ml/箱
	NP化成	7g/箱
	硫安	5g/箱
時期	1回目	1.0～1.5葉
	2回目	2.0～2.5葉
	3回目	移植3～5日前

各育苗様式ともに移植3～5日前に追肥を行い、移植後の活着促進に努めましょう。

苗が目標の葉齢に達しても移植できない場合は追肥を行い、老化防止に努めましょう。

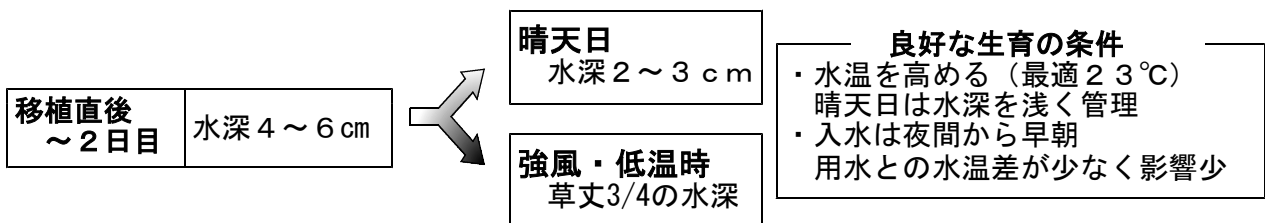
※育苗緩効性肥料（マイクロロング、エコロングなど）を施肥した場合は不要です。

3. 本田準備

- ・畦畔塗りを実施して、深水管理（水深20cm）が可能な畦高の確保と漏水を防止しましょう。
- ・土壌診断に基づく適正な施肥、ケイ酸質資材の施用に努めましょう。

4. 移植作業と水管理

- ・移植作業はなるべく強風・低温時は避け、5月一杯を目途に終わらしましょう。
- ・側条施肥は窒素施肥量の3～4割とし、初期生育を促進させましょう。
- ・初期茎数を確保するため、植付深は1.5～2.0cmを目安に移植しましょう。
- ・移植後すぐに入水し、下図のように天候に応じて水深を調整しましょう。
- ・水深が深く葉先が水面に垂れると、ヒメハモグリバエが産卵しやすくなるため、低温・強風時を除き、水深2～3cmの浅水管理を基本にしましょう。



農機具の点検と事故防止に努めましょう！